

## はじめに

NPO/NGO、行政、教育関係、事業者（企業）などは、持続可能な社会を目指して、環境保全活動に取り組んでいます。

一方、私達が暮らしている地域社会では、自然環境の荒廃・少子高齢化・地域活力の低下・貧困・格差の拡大など、多様な問題が起きています。

これらの問題を解決するには、自ら課題を見つけ、学び、考え、客観的に判断し、他者と協力しながら課題解決に向けて行動する力が必要となります。ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) は、そういった力を身につけるための学びです。(ESD 環境教育モデルプログラム : 環境省 HP より)

このESDを推進していくためには、地域にESDを担う人が必要です。これまで、千葉県や県内各自治体でも環境保全活動の担い手育成が展開されてきました。しかし、担い手の高齢化や団体の活力低下、働き方の変容など、今後の担い手不足も懸念されています。

さらに、2015年9月の国連サミットでSDGs「Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標」が採択され、2030年までの目標達成に向けた多様な主体の活動が求められているところです。

そこで、特定非営利活動法人環境パートナーシップちばは、ESD地域リーダー人材育成を目指し、さらに、ESD地域リーダーが活躍する場（プラットホーム）の構築などについて、地球環境基金の助成を受け2018年から事業を展開しています。

2018年は、事業のスタートとして、県内で活躍している市民活動団体等のご協力を得て、各団体が実施している環境学習プログラムを教材として、ESDの視点を学びました。

参加者は、地球温暖化、生物多様性、資源循環、水環境の4グループに分かれ、ESDの視点を入れるプログラム作りを通して、ファシリテーター石井雅章氏のご協力によってこれまでのプログラムとの違いに気づき、ESDについて考え方を深めることができました。

ここに、1年目の成果を「ESDプログラム」ガイドブックとして取りまとめました。まだ検討途中ではありますが、ESDプログラムとは、より良いものを目指して常に改良し続けるものとしてご覧いただければ幸いです。

このプログラムは、2019年度は実証を行い、ブラッシュアップしながら、改良していきます。本プログラムが、県内で活動している団体などの参考になれば幸いです。

また、地域プログラム作りに関心をお持ちの方は、ぜひこの事業にご参加くださるよう、お誘い申し上げます。